

教員の活動資料

環境生態学科

1. 受賞

なし

2. 著書

尾田太良, 佐藤時幸編 (2013) 新版微化石研究マニュアル. 堂満華子, 第1章2.2「グラブ採泥器」, 山崎 誠, 堂満華子, 第2章2「有孔虫, 貝形虫」および第4章1「有孔虫」, 朝倉書店, 東京.

清水亮, 橋本勝編 (2013) 学生と楽しむ大学教育. 倉茂好匡, 第8章「授業するのが楽しくなる授業とは : 基礎物理学での実践例」, ナカニシヤ出版, 京都.

3. 論文

太田洋平, 後藤直成, 伴修平 (2013) クロロフィル蛍光を用いた現場植物プランクトン一次生産力測定法の検討. 陸水学雑誌, 74: 173-181.

亀甲武志, 根本守仁, 伴修平, 三枝仁, 澤田宣雄, 石崎大介, 中橋富久, 寺本憲之, 藤岡康弘 (2013) 稲作水田におけるホンモロコ *Gnathopogon caerulescens* 仔稚魚の育成, 水産増殖, 61: 303-309.

Liu, X., D. Beyrend-Dur, G. Dur, S. Ban (2013) Effects of temperature on life history traits of *Eodiaptomus japonicus* (Copepoda: Calanoida) from Lake Biwa (Japan). *Limnology*, doi: 10.1007/s10201-013-0417-9.

椎原美紀, 堂満華子, 鳥井真之, 長橋良隆, 奥野 充 (2013) 日本海とその周辺に分布する鬱陵島起源の完新世テフラ. 第四紀研究 52 : 225-236.

Goto, N., H. Azumi, T. Akatsuka, M. Kihira, M. Ishikawa, K. Anbutsu and O. Mitamura (2013) Highly efficient silica sink in the monomictic Lake Biwa in Japan. *Annales de Limnologie – International Journal of Limnology*, 49: 139-147.

Yao, Y., T. Sakamoto, Y. Honda, Y. Kagotani, K. Izumitsu, K. Suzuki and T. Irie (2013) The white-rot fungus *Pleurotus ostreatus* transformant overproduced intracellular camp and laccase. *Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry*, 77: 2309-2311.

丸尾雅啓 (2014) 天然水中の金属配位子の分析, ぶんせき 470 : 71-76.

Shafi Mohammad Tareq, Masahiro Maruo, Keiichi Ohta (2013) Characteristics and role of groundwater dissolved organic matter on arsenic mobilization and poisoning in Bangladesh, *Physics and Chemistry of the Earth Part A/B/C* 58-60 : 77-84.

三宅隆之, 永淵修, 金谷整一, 横田久里子, 手塚賢至, 橋本尚巳, 木下弾, 伊勢崎幸洋 (2013) 屋久島および霧島における無機イオン成分の針葉への乾性沈着. 大気環境学会誌 48 : 92-100.

菱田尚子, 永淵修, 田辺雅博 (2014) 滋賀県北部における一降雨イベント内での水銀濃度変動, 大気環境学会誌, 大気環境学会誌 49 : 78-85

Kyogoku, D., Nishida, T. (2013) The mechanism of the fecundity reduction in *Callosobruchus maculatus* caused by *Callosobruchus chinensis* males. *Population Ecology* 55 (1) PP. 87 – 93.

Nishida, S., Kanaoka, MM., Hashimoto, K., Takakura, KI, & Nishida, T. (2013) Pollen–pistil interactions in reproductive interference: comparisons of heterospecific pollen tube growth from alien species between two native *Taraxacum* species, *Functional Ecology* 28(2) : 450–457.

Tsurui, K., Honma, A., Nishida, T. (2013) Size-dependent predation risk partly explains the sex-related marking polymorphism in the sexually size-dimorphic pygmy grasshopper *Tetrix japonica*. *Entomological Science* 16 (2) PP. 136 - 144

Popova, A.S., Tokuchi, N., Ohte, N., Ueda, M.U., Osaka, K., Maximov, T.C., Sugimoto, A. (2013) Nitrogen availability in the taiga forest ecosystem of northeastern Siberia, *Soil Science and Plant Nutrition* 59(3) : 427-441.

Zhu, D., Li, P., Tanabe, S. and Sun, J. (2013) Genome Sequence of the Alkaliphilic Bacterial Strain, *Bacillus ligninosis* L1, a Novel Degrader of

- Lignin. Genome Announc. 1: e00042-13.
- Zhu, D., Tanabe, S., Yang, C., Zhang, W. and Sun, J. (2013) Bacterial community composition of South China Sea sediments as revealed by pyrosequencing-Based analysis of 16S rRNA genes. PLOS ONE 8(10): e78501.
- Zhu, D., Tanabe, S., Zhang, W. and Sun, J. (2014) *Bacillus ligniphilus* sp. nov., an alkaliphilic and halotolerant bacterium isolated from sediments of South China Sea. Int. J. Syst. Evol. Microbiol, (in press).
- Shimazu, T. and Urabe, M. (2013) *Allocreadium tamoroko* sp. nov. (Digenea, Allocreadiidae) parasitic in the intestine of the freshwater fish *Gnathopogon elongates elongates* (Cyprinidae) from Shiga Prefecture, Central Japan. Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. A., 39: 69-72.
- Urabe, M. and Shimazu, T. (2013) *Allogenarchopsis* gen. nov. (Digenea, Derogenidae, Halipeginae) parasitic in the intestine of freshwater fishes: a molecular and morphological study of adult and cercarial forms. Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. A, 39: 119-130
- Tatara, T., Hamada, K., Urabe, M. and the Biology Club of Kojo High School (2013) Across-population variation in sex ratio in invasive Japanese *Potamopyrgus antipodarum* (Caenogastropoda: Risssooidea: Hydrobiidae). Limnology (in press)
- Shimazu, T., Cribb, T. H., Miller, T. L., Urabe, M., Ha, N. V., Binh, T. T. and Shed'ko, M. B. (2014) Revision of *Isoparorchis* Southwell, 1913 (Digenea, Hemiuroidea, Isoparorchiiidae), parasites of the air bladder of freshwater catfishes: a molecular and morphological study. Bull. Natl. Mus. Sci. Ser. A, 40: 15-51.
4. 作品
なし
5. 報告書,その他著作,一般向け記事
- 1) 科研費他外部研究費による研究の成果報告書
- 浦部美佐子 (2013) 科学研究費補助金基盤研究 (C) 平成 22~24 年研究成果報告書, 琵琶湖固有カワナ類の系統進化および二次交雑が吸虫感染耐性に与える影響.
- 2) 受託研究等の報告書
- 伴 修平, 浦部美佐子, 中瀬法子 (2014) 草津市びわこ淡水真珠養殖の復興調査研究委託 平成 25 年度報告書. 14pp.
- 後藤直成, 伴修平 (2013) クロロフィル励起蛍光法を用いた植物プランクトンの一次生産速度の測定. 河川整備基金助成事業報告書, 21 pp.
- 野一色 麻人, 浜端悦治 (2014) NPO 法人 中池見ねっと, 平成 25 年度受託研究報告書, 中池見湿地における希少植物種の保全, 群落再生のためのヨシ管理手法の研究.
- 尾坂兼一 (2013) 平成 23-24WEC 応用生態研究助成成果報告書 ダム湖への窒素流入量推定の精度向上に関する研究.
- 3) ハンドブック,辞典,図鑑などへの執筆
- 浜端悦治 (2012) 水草, 「内藤正明(監修), 琵琶湖ハンドブック(改訂版)」, 166-167. 滋賀県琵琶湖環境部環境政策課.
- 4) 新聞,一般向け雑誌等への解説記事など
- 浜端悦治 (2013) 森林のはたす役割①. 「検証 琵琶湖」第 7 回, 滋賀民報. 2013 年 9 月 29 日.
- 浜端悦治 (2013) 森林のはたす役割②—琵琶湖の富栄養化にも影響. 「検証 琵琶湖」第 8 回, 滋賀民報. 2013 年 10 月 13 日.
- 浜端悦治 (2013) 水鳥の越冬の場, 琵琶湖. 「検証 琵琶湖」第 9 回, 滋賀民報. 2013 年 10 月 20 日.
- 浜端悦治 (2013) 琵琶湖の沿岸帯—その役割. 「検証 琵琶湖」第 10 回, 滋賀民報. 2013 年 11 月 10 日.
- 浜端悦治 (2014) 水草と琵琶湖の水質. 「検証 琵琶湖」第 14 回, 滋賀民報. 2014 年 1 月 12 日.
6. 学会等への発表

- Ban, S., Y. Ota and N. Goto (2013) High-frequency monitoring of *in situ* primary production using optical sensors in Lake Biwa, Japan. 32nd SIL, Budapest(2013年8月5～9日)
- 太田洋平, 後藤直成, 伴修平 (2013) クロロフィル蛍光を用いた現場植物プランクトン一次生産の測定, 日本陸水学会第78回大津大会, 大津(2013年9月11～13日)
- 刘鑫, D. Beyrend-Dur, G. Dur, 伴修平 (2013) 琵琶湖のカイアシ類*Eodiaptomus japonicus*の生活史特性に与える水温の影響, 日本陸水学会第78回大津大会, 大津(2013年9月11～13日)
- 長谷川直子, 北澤大輔, 熊谷道夫, 伴修平 (2013) 琵琶湖における沖向き物質輸送, 日本陸水学会第78回大津大会, 大津(2013年9月11～13日)
- Yin, A., S. Ban, S. Tanabe, H.-W. Li and M. Iwataki (2013) Occurrence of harmful dinoflagellates in the coastal areas around Hainan Island, South China, 日本プランクトン学会, 日本ベントス学会合同大会, 仙台(2013年9月28～29日)
- 田辺祥子, 更井紀一, 市井涼子, 喜多見菜月, 伴修平, 森司 (2013) *Daphnia magna*(オオミジンコ)におけるこみ合い応答遺伝子の発現解析, 第36回分子生物学会, 神戸(2013年12月3～6日)
- 後藤直成, 吉原亜悠, 三野義尚, 石坂丞二 (2013) 衛星リモートセンシングを用いた琵琶湖におけるクロロフィル a 濃度の推定. 日本陸水学会第78回大会, 9月11日～12日(大津).
- Ishida, N. and N. Goto (2013) Primary production and species composition of benthic algae growing on the different types of substratum at the littoral area in the North basin of Lake Biwa, Japan. SIL XXXII Congress, 4-9 August (Budapest).
- 石田典子, 宗宮麗, 後藤直成 (2013) 琵琶湖北湖沿岸域の異なる底質における付着藻類相. 日本陸水学会第78回大会, 9月11日～12日(大津).
- 三田村緒佐武, 後藤直成, 安積寿幸, 石川俊之 (2013) 琵琶湖最深水域における生元素化合物現存量の鉛直, 季節分布の近年10年間の変化. 日本陸水学会第78回大会, 9月11日～12日(大津).
- 浜端悦治, 大谷隆太, 野崎尚吾, 築山省吾 (2013) 逆レジームシフトの発生か?—近年の琵琶湖南湖生態系—, 日本景観生態学会 第23回盛岡大会(2013年6月28日～30日).
- 山本唯人, 肥田嘉文, 北村千寿, 井上吉教, 竹原宗範 (2014) 藻類が繁茂する環境水のエストロゲン活性物質の安定性と構造解析, 第48回日本水環境学会年会, 仙台市(2014年3月17日～3月19日).
- 小倉伸介, 政木芽衣, 肥田嘉文, 上町達也 (2014) 野菜がもつ変異原性と虫害の程度との関係, 第48回日本水環境学会年会, 仙台市(2014年3月17日～3月19日).
- 澤山奈里, 肥田嘉文, 増田清敬, 寄本明, 南和広 (2014)10代における体の柔軟性の変化と体の痛みの自覚症状, 京都滋賀体育学会第143回大会, 京都市(2014年3月8日).
- 籠谷泰行, 小番成将 (2014) ナラ枯れによるギャップ発生と土壌の環境形成機能に対する影響について, 第125回日本森林学会大会, さいたま市, (2014年3月26日～3月30日)
- 冉胎, 倉茂好匡 (2013) 犬上川河口部における人工掘削後の地形変化: 特に砂嘴形成プロセスに着目して. 日本地形学連合2013年秋季研究発表会, 仙台市(2013年9月13日～9月15日)
- Yoshimasa Kurashige (2013) Measurement of hydraulic head distribution below river bed at around alluvial fan end: case study at the Inukami River, Central Japan. The 8th International Conference on Geomorphology, Paris, France (27 to 31 August 2013)
- 倉茂好匡, 中野利昭 (2014) 彦根市北川河口域の堆積物柱状試料を用いた過去30年の環境復元の試み. 2014年度日本地理学会春季学術大会, 東京都(2014年3月26日～3月30日)
- 丸尾雅啓, 小山和香, 小畑元(2013)好氣的陸水中に溶存するFe(II)の化学形態, JpGU Meeting 2013, 千葉市(2013年5月20日～24日)
- Masahiro Maruo, Waka Oyama, Hajime Obata, Kazuki Nagaoka, Yuta Yaginuma, Akira Mase, Shin Wakiyama (2013) Speciation of Iron(II) in oxic freshwater Lake Biwa, Japan, SIL 2013, Budapest, Hungary, (2013年8月4日～9日)
- 小山和香, 小畑元, 丸尾雅啓 (2013) 琵琶湖水中に溶存するFe(II)配位子のキャラクタリゼーション, 日本陸水学会第78回大会, 大津市, (2013年9月10日～13日)
- 長岡愛理, 丸尾雅啓 (2013) 琵琶湖北湖における溶存態ヒ素の化学種別分析及び季節変化, 日

- 本陸水学会第 78 回大会, 大津市, (2013 年 9 月 10 日~13 日)
- 丸尾雅啓, Tanveer Ahmed, 奥本暢 (2013) o-フェナントロリン化学発光法による陸水中溶存銅(II)の定量に与える鉄の増感効果, 日本分析化学会第 62 年会, 東大阪市, (2013 年 9 月 10 日~12 日)
- 丸尾雅啓, 倉茂好匡, 後藤達 (2014) 琵琶湖に流入する河川の河口堆積物の化学分析による近過去環境の復元, 日本陸水学会近畿支部会第 25 回研究発表会, 寝屋川市, (2014 年 2 月 23 日)
- 片岡寛大, 丸尾雅啓 (2014) 琵琶湖水中における溶存有機物の光分解に与える金属の影響, 日本陸水学会近畿支部会第 25 回研究発表会, 寝屋川市, (2014 年 2 月 23 日)
- 高岡大暉, 丸尾雅啓 (2014) イオンクロマトグラフィーを用いた琵琶湖水中微量正リン酸定量法の開発, 日本陸水学会近畿支部会第 25 回研究発表会, 寝屋川市, (2014 年 2 月 23 日)
- 鈴木貴之, 丸尾雅啓 (2014) 花火大会前後における過塩素酸イオンの動態, 日本陸水学会近畿支部会第 25 回研究発表会, 寝屋川市, (2014 年 2 月 23 日)
- 西田友規, 永淵修, 尾坂兼一, 三宅隆之 (2013) 自由対流圏における大気中水銀の濃度変化. 日本地球惑星科学連合大会 2013 : AAS21-P26, 2013 年 5 月, 幕張メッセ.
- 池田佳祐, 永淵修, 尾坂兼一 (2013) 大気中の粒子状物質の動態. 日本地球惑星科学連合大会 2013 : AAS21-P24, 2013 年 5 月, 幕張メッセ.
- 永淵修, 横田久里子, 手塚賢至, 地下まゆみ, 中澤暦 (2013) 屋久島における PM 粒子を含むアジア大陸からの大気汚染. 日本地球惑星科学連合大会 2013 : AAS21-P14, 2013 年 5 月, 幕張メッセ.
- 中澤暦, 永淵修, 西田友規, 金谷整一 (2013) コネスコエコパークに指定された宮崎県綾の森における酸性沈着量の評価. 日本地球惑星科学連合大会 2013 : AHW28-P04, 2013 年 5 月, 幕張メッセ.
- 本間知夫, 永淵修, 横田久里子, 金谷整一, 手塚賢至 (2013) 生体電位計測による絶滅危惧種ヤクタネゴヨウの根系機能の評価~屋久島における計測. 第 38 回根研究集会, 2013 年 5 月, 鹿児島県西之表市.
- 永淵修, 海老瀬潜一, 横田久里子, 手塚賢至, 手塚田津子, 田辺雅博, 鮎川和泰 (2013) ヤクシマカワゴロモが生育する一湊川の水質変遷, 日本陸水学会第 78 回大津大会, 大津 (2013 年 9 月 11~13 日)陸水学会年次大会
- 鮎川和泰, 永淵修, 手塚賢至, 北渊浩之, 中澤暦 (2013) ヤクシマカワゴロモの生育する一湊川の溶存性有機物, 日本陸水学会第 78 回大津大会, 大津(2013 年 9 月 11~13 日)
- 北渊浩之, 永淵修, 横田久里子, 手塚賢至,手塚田津子, 鮎川和泰,田辺雅博 (2013) ヤクシマカワゴロモの生育する一湊川における付着珪藻類の増殖, 日本陸水学会第 78 回大津大会, 大津(2013 年 9 月 11~13 日)
- 手塚賢至, 手塚田津子, 齊藤俊浩, 永淵修 (2013) ヤクシマカワゴロモの一湊川における分布状況と保全, 日本陸水学会第 78 回大津大会, 大津(2013 年 9 月 11~13 日)
- 横田久里子, 永淵修, 北渊浩之, 手塚賢至, 手塚田津子, 田辺雅博, 鮎川和泰 (2013) ヤクシマカワゴロモが生育する一湊川の水文観測, 日本陸水学会第 78 回大津大会, 大津(2013 年 9 月 11~13 日)
- Nagafuchi, O., K., Yokota, S., Kato, H., Kinoshita, N., Hashimoto. (2013) Origin of atmospheric gaseous mercury using the Hg/Co ratio in pollution plume observed at Mt.Fuji Weather Station, The 11th International Conference on Mercury as a global pollutant, Edinburgh, Scotland.
- Nagafuchi, O., R., Elvince, A., diamor, T., Kawakami, T., Inoue (2013) History of mercury contamination associated with artisanal and small scale gold mining estimated from accumulation rate of lake sediments, central Kalimantan, Indonesia, The 11th International Conference on Mercury as a global pollutant, Edinburgh, Scotland.
- Nagafuchi, O., R., Elvince, T., Kawakami, T., Inoue, B., Muhammad, K., Nakazawa (2013) On-site measurements of ambient atmospheric mercury around a small scale gold mining areas, Palu city, central Sulawesi Indonesia The 11th International Conference on Mercury as a global pollutant, Edinburgh, Scotland.

- Nakazawa, K., O. Nagafuchi, H., Kinoshita, N., Hishida, T., Kawakami, T., Inoue, R., Elvince, Ardianor (2013) Comparison on hair mercury levels in relation to high high consumption groups with different environmental situation The 11th International Conference on Mercury as a global pollutant, Edinburgh, Scotland.
- Nakazawa, K., O. Nagafuchi, H., Kinoshita, N., Hashimoto, M., Morimoto (2013) Atmospheric gaseous mercury and contaminants in PM concentration levels in Asian mega cities, The 11th International Conference on Mercury as a global pollutant, Edinburgh, Scotland.
- 内田千嗣, 西田隆義 (2014) ニジュウヤホシ一オオニジュウヤホシテントウの分布境界はいかに決まるのか. 日本生態学会第 61 回大会, 広島.
- 内田千嗣, 西田隆義 (2014) オオニジュウヤホシとニジュウヤホシテントウの側所分布形成に対する繁殖干渉の効果. 日本応用動物昆虫学会第 58 回大会, 高知.
- 川畑幸樹(2014)何故クロモは結実しないのか～水生植物の花粉干渉～
- 高橋智, 西田隆義 (2014) 繁殖干渉を伴う島の生物地理モデル. 日本生態学会第 61 回大会, 広島.
- 西田佐知子, 高倉耕一, 西田隆義 (2013) 繁殖干渉の有効距離から植物の分布を考える. 第 12 回日本植物分類学会大会(千葉)
- Noriyuki, S., Osawa, N. & Nishida, T. (2013) Asymmetric reproductive interference between specialist and generalist *Harmonia* ladybirds in Japan. The 12th International Symposium “Ecology of Aphidophaga”, Belgrade, Serbia.
- 吉崎雄宏, 西田隆義, 高倉耕一 (2014) センダングサ属における花粉干渉と資源競争が分布決定に与える影響について. 日本生態学会第 61 回大会, 広島.
- 久郷達朗, 尾坂兼一, 伊井裕美, 永淵修, 西田継, 中村高志 (2013) 森林流域における水移動過程と窒素化合物の流出機構, JpGU, 幕張大会(2013年5月19-24日)
- Abigail Cid, Uhram Song, Ichiro Tayasu, Jun-ichi Okano, Hiroyuki Togashi, Naoto F. Ishikawa, Aya Murakami, Takuya Hayashi, Tomoya Iwata, Ken'ichi Osaka, Shin-ichi Nakano, Noboru Okuda (2013) Phosphate oxygen isotopes as a tool to trace phosphorus sources and cycling in a watershed, JpGU, Makuhari (19-24 May)
- Abigail P. Cid, Uhram Song, Ichiro Tayasu, Jun-ichi Okano, Hiroyuki Togashi, Naoto F. Ishikawa, Aya Murakami, Takuya Hayashi, Tomoya Iwata, Ken'ichi Osaka, Shin-ichi Nakano, Noboru Okuda (2013) Tracing sources and cycling of phosphorus in a watershed using phosphate isotopes of oxygen, 78th JSL meeting, Shiga (10-13, Sep.)
- 中村高志, 尾坂兼一, 西田継, 風間ふたば (2013) ネパール, カトマンズ盆地の下水漏洩に伴う浅層地下水の窒素汚染, 水文科学会, 千葉大会(2013年10月19日～20日).
- Tanabe, S., Anqi, Y., Ban, S., Hosoi, M. and Lee, H.-D. (2013) Expanding the habitat of harmful microalgal species through the imported and exported fish fry in the coastal area of Southeast Asia. The 3rd NRCT – JSPS Joint International Seminar on Coastal Marine Science in Southeast Asia 15-17 November 2013, Chiang Mai, Thailand.
- 田辺祥子, 二神学司 (2013) 好塩性細菌を用いた海藻の分解と有用物質エクトインの合成. マリンバイオテクノロジー学会, 那覇(5月29日-5月31日).
- 田辺祥子, 二神学司 (2013) 好塩性細菌を用いた海藻分解システムの構築. 日本水産学会, 函館(3月27日～3月31日)
- 曾我部共生, 浦部美佐子, 渡邊輝世 (2014) 彦根城中堀のオニバス個体群に対するアカミミガメ食害影響の検証.第 61 会日本生態学会大会.広島国際会議場.2014年3月14～18日.
- 鹿野秀一, 金谷弦, 浦部美佐子, Rastyazhenko N, Yurlova N. I. (2014) 吸虫類寄生虫のセルカリア幼生が湿原食物網内で果たす役割: 水生動物による摂食量の評価.第 61 会日本生態学会大会.広島国際会議場.2014年3月14～18日.
- 石橋亮, 上原一彦, 浦部美佐子(2014)淀川産コイおよびイシガイからの *Phyllodistomum sp.* の新記録.第 83 回日本寄生虫学会大会.愛媛大学.2014年3月26～28日

7. 研究会等,講演会,特別講義での発表

1) 研究会等における発表

後藤直成 (2013) 滋賀県立大学における船舶を利用した教育. 琵琶湖をテーマにした教育に関するワークショップ 2013. 草津, 2013年1月9日.

野一色麻人 (2014) 希少植物種の保全に向けたヨシ管理手法の検討. 中池見フォーラム 2014. 敦賀市東郷公民館ホール. 2014年3月2日.

永淵 修, 横田久里子, 加藤俊吾, 中澤 暦, 西田友規, 菱田尚子 (2013) 「富士山頂における大気中水銀の連続観測と同期する大気汚染物質の観測及び湿性降下物中の水銀濃度の把握」NPO 富士山測候所を活用する会第7回成果報告会 2014年2月26日

2) 講演会

伴修平 (2013) 琵琶湖の甲殻類動物プランクトン群集構造に対するアユのトップダウン制御の可能性, 滋賀県水産試験場, 彦根, 2013年7月22日.

永淵修 (2013) パーキンエルマー ジャパン講演会 2013年11月20日「中国大陸からの大気汚染～最新の分析機器による屋久島におけるPM2.5の解析」

3) 授業

伴修平 (2013) 陸水学, 創価大学, 八王子, 2013年8月30日.

肥田嘉文 (2013) 私たちの身体と日常の『動作』の話ーヒトの身体はもっと良くできているー, 滋賀県立大学オープンキャンパス 2013(環境生態学科ミニ講義), 滋賀県立大学, 2013年7月27日.

丸尾雅啓 (2013) 琵琶湖の水, みのまわりの水, 滋賀県立大学秋期公開講座, 近江生涯学習カレッジ彦根校講義, 滋賀県立大学, 2013年10月19日.

丸尾雅啓 (2013) 環境とクロマトグラフィー, 青少年のための科学の祭典滋賀大会, 滋賀県立大学交流センター, 2013年10月20日.

永淵修 (2013) 環境分析化学, 長浜バイオ大学, 長浜, 2013年度 後期.

西田隆義 (2013) 食うものと食われるものに関

係: 食われないための工夫について考える. . 高大連携事業, 滋賀県立大学, 8月22日.

西田隆義 (2013) 身近な外来種から生物多様性を考える: 外来種はなぜ強いのか? 守山市明富中学総合学習. 11月11日.

浦部美佐子 (2013) 魚の寄生虫を調べよう. 滋賀県立琵琶湖博物館講座. 滋賀県立琵琶湖博物館. 2013年5月18日.

8. 展覧会等

なし

9. 競争的研究資金の導入

1) 本学特別研究

田辺祥子. 特別研究, 琵琶湖に侵入した外来シジミの分子遺伝学的解析と固有種セタシジミへの遺伝的影響の検証, 2013~2014年度, 130万円(2013年度)

2) 科学研究費補助金

伊村智, 伴修平, その他 8名. 極限環境下の生物多様性ーモデルサイトとしての南極湖沼, 科学研究費補助金 基盤研究(A), 2011-2014年, 50万円.

後藤直成, 伴修平, 石田典子. 光学的手法を用いた植物プランクトンによる一次生産速度の連続測定. 基盤研究(C), 2012~2014年, 270万円(2013年).

鏡味麻衣子, 伴修平, 田辺祥子, その他 2名. 湖沼および海洋におけるツボカビの多様性と機能評価: 検出方法の開発と物質流の定量化, 科学研究費補助金 基盤研究 (B), 2013-2015年, 20万円

秋山道雄, 横山秀司, 浜端悦治, 塚本礼仁, 長谷川直子. 湖沼流域における沿岸エコトーンの景観生態学的特性把握と環境資源管理に関する研究(C)(一般), 平成 24~27年度, 390万円.

丸尾雅啓, 琵琶湖水圏生態系に影響を与える金属配位子の特定と生産者の解明, 基盤研究 (C), 平成 23~25年度, 70万円.

倉茂好匡, 丸尾雅啓, 水質悪化時期を含む近過

去の環境復元手法の開発, 挑戦的萌芽研究,
平成 24~26 年度, 60 万円

小畑元, 蒲生俊敬, 岡村慶, 丸尾雅啓, 現場型
分析計を用いた熱水起源微量金属元素の広域
調査技術の開発, 基盤研究(B), 平成 24~27
年度, 40 万円.

早川和秀, 杉山裕子, 田中仁志, 藤嶽暢英, 丸
尾雅啓, 湖沼に蓄積する難分解性溶存有機物
の藻類影響評価試験法の開発, 基盤研究(C),
平成 24~26 年度, 15 万円.

西田隆義 資源スペシャリストとジェネラリス
トを繁殖干渉により統一的に説明する, 挑戦
的萌芽研究 平成 25~27, 50 万円

尾坂兼一 酸素安定同位体比が明らかにする森
林生態系における窒素流出入と内部窒素循環
の関連性 若手(B), 平成 25~27 年度, 130 万
円.

尾坂兼一, その他 10 名, 福島原発事故で沈着
した ^{137}Cs の集水域生態系における移動の実
態把握とモデル化 基盤研究(A)平成 24 - 27
年度, 10 万円

浦部美佐子. 琵琶湖固有カワニナ類における遺
伝子浸透の解明と吸虫感染耐性への影響(平
成 25~27 年). 50 万円.

3) 政府および地方公共団体(関連法人を含む)
からの補助金

坂野博之, 伴修平, その他 3 名. 湖沼漁業生産
に対する影響評価と漁業生産安定化を目指し
た適応技術の開発(水産庁プロジェクト研究
「農林水産分野における地球温暖化対策のた
めの緩和及び適応技術の開発」). 2010~2014
年, 50 万円.

伴修平, 浦部美佐子. 淡水真珠養殖の復興調査
研究等業務, 草津市受託研究, 2012-2014 年,
150 万円

浜端悦治. 暖帯平野景観本州における代表種選
定と生

息条件に及ぼす農法の影響解明. 農林水産省委
託プロジェクト研究. 平成 25 年~29 年, 100
万円.

4) その他財団からの研究補助金

浜端悦治. 琵琶湖南湖での水草の根こそぎ刈取

の影響

把握と水草群落の水質改善機構の解明. 公益財
団法人住友電工グループ社会貢献基金学術,
研究助成. 平成 25 年 10 月~平成 26 年 9 月.
110 万円.

尾坂兼一 森林から河川への簡易な窒素流出予
測に関する研究 河川環境管理財団 河川整
備基金助成事業 70 万円

5) 受託研究の受け入れ

浜端悦治. 中池見湿地における希少植物種の保
全, 群落再生のためのヨシ管理手法の研究.
NPO 法人 中池見ねっと. 平成 25 年 4 月 1 日
~平成 26 年 1 月 20 日. 32 万円.

10. 研究員の受入

Dur, Gaël Patrice Roger, 伴修平. Inter-site
comparison of the effect of climate change on lake
planktonic communities, 日本学術振興会外国人
特別研究員(欧米長期), 2011 年 11 月 1 日~2013
年 10 月 31 日.

安積寿幸, 後藤直成. 琵琶湖-淀川水系におけ
るケイ素の物質循環に関する研究. 2013 年 4
月 1 日~2014 年 3 月 31 日.

巖靖子, 浜端悦治. 琵琶湖ヨシ茎の付着微小生
物の多様性とその役割. 2013 年 4 月 1 日~2014
年 3 月 31 日.

松本崇, 西田隆義. セイヨウミツバチの減少と
ネオニコチノイド系殺虫剤との関係. 2013
年 4 月 1 日~2014 年 3 月 31 日

本間淳, 西田隆義. 警告色の多型をもたらす進
化的要因の解明. 2013 年 5 月 1 日~2014 年 3
月 31 日

11. 特許, 実用新案, 品種登録, 意匠, その他著作
権に関わる事項

なし

12. 社会への貢献

1) 各種委員会

伴修平, 滋賀県琵琶湖博物館協議会委員, 委員, 2 回

(2013年9月～2014年8月).

伴修平, NPO 自然の恵み, 理事, 2010年8月～

浜端悦治 (2013) 琵琶湖南地域ヨシ群落再生協議会委員.

浜端悦治 (2013) 滋賀県公共事業評価監視委員会委員.

浜端悦治 (2013) 滋賀県生物環境アドバイザー.

浜端悦治 (2013) 滋賀県生きもの総合調査委員会専門部会委員.

浜端悦治 (2013) (仮称)滋賀県生物多様性地域戦略策定に係る専門家会議委員.

丸尾雅啓, びわ湖フローティングスクール運営懇話会, 委員, 2回, 2013年4月1日～2014年3月31日.

NPO 法人環境統計統合機構 理事

田辺祥子, 大阪府千里高等学校スーパーサイエンスハイスクール運営委員

浦部美佐子 (2013) 滋賀県国土利用計画審議会委員(平成23年～26年)

浦部美佐子 (2014) 滋賀県環境影響評価審査会委員(平成26年～29年)

浦部美佐子 (2013) 日本学術振興特別研究員等審査会専門委員および国際事業委員会書面審査委員会(平成25～26年)

2)学会貢献

伴修平, 日本プランクトン学会和文誌編集委員 (2013年1月～2014年3月).

伴修平, 日本プランクトン学会英文誌編集委員 (2013年1月～2014年3月).

伴修平, 日本陸水学会 Limnology 編集顧問 (2013年4月～2014年3月).

伴修平, 日本陸水学会 学会賞選考委員 (2013年1月～2014年3月).

伴修平, 日本生態学会 Ecological Research 編集委員 (2013年1月～2014年3月).

浜端悦治 (2013) 日本景観生態学会専門幹事 (生態).

肥田嘉文, 日本水環境学会関西支部幹事 (2013年4月～2014年3月).

丸尾雅啓, 日本分析化学会近畿支部, 幹事, 2013年4月1日～2014年3月31日.

丸尾雅啓, 日本分析化学会第62年会実行委員会, 実行委員, 2013年3月11日～9月12日.

西田隆義 (2013) 個体群生態学会運営委員.

西田隆義 (2013) 日本昆虫学会英文誌編集委員.

尾坂兼一 (2013) 日本水文水資源学会 編集委員

田辺祥子, マリンバイオテクノロジー学会評議員 (2013年4月～2015年3月)

浦部美佐子 (2014) 日本生態学科近畿地区会委員.

3)国際貢献, 海外調査など

伴修平, 中国海南省における渦鞭毛藻類調査, 2014年3月23日～26日.

浜端悦治 (2013) モンゴルでの湖沼調査. 8月8日～9月3日.

尾坂兼一 (2013) モンゴルでの地下水調査. 9月26日～10月6日.

田辺祥子, 中国海南省における養殖魚貝類の輸入状況調査. 2014年3月23日～26日

田辺祥子, JSPS Asian CORE Program「東南アジアにおける沿岸海洋学の研究教育ネットワーク構築」HAB group meeting, 2013年11月16日.

鹿野秀一, 金谷弦, 浦部美佐子, 上坂宗憲, Yurlova N. I., Yurlov A., Rastyazhenko N. 日本学術振興会二国間国際交流事業 (東北大学)「西シベリアの河口域生態系における食物網内の吸虫類寄生虫の摂食リンク」によるロシア, チャニー湖での寄生虫調査. (2013年8月6日～21日)

浦部美佐子 (2013) セミナーCertificate course on fish Parasitology 講師およびルソン島における寄生虫調査. Santo Tomas 大学, マニラ (2013年9月3日～16日)

13. マスメディアとの対応

1) 新聞, 雑誌等からの取材による記事

浜端悦治 (2014) ダム去りトチノキの聖地—滋賀県, 長浜に西日本最大級の巨木林. 朝日新聞夕刊. 2014年1月30日.

永淵修 (2013) New York Times, Scientist Says Pollution From China Is Killing a Japanese Island's Trees, 平成25年4月24日

永淵修 (2013) International Herald Tribune, Japanese see dying trees as linked to Chinese air.

- 平成 25 年 4 月 24 日
永淵修 (2013) Honolulu star avertiser, Death of trees in Japan blamed on pollutants blowing in from China. 平成 25 年 4 月 24 日
永淵修 (2013) The Sydney morning herald, Forest suffers in ill wind from China. 平成 25 年 4 月 26 日
永淵修 (2013) Bangkok post, Answer to riddle of dying trees is blowing in the wind from China. 平成 25 年 4 月 28 日
永淵修 (2013) Today (Singapore), Polluted air from China 'killing trees on Japanese isle. 平成 25 年 4 月 28 日
永淵修 (2013) 朝日新聞, 「富士山頂の大気 高濃度水銀検出 市街地の 10 倍超 中国から飛来か」. 平成 25 年 4 月 16 日,
永淵修 (2013) The Asian age (India) 'Toxic air from China is polluting Mt. Fuji, Japan study says' 2013 年 10 月 5 日
永淵修 (2013) Arab times, 'China is polluting Fuji', 2013 年 10 月 7 日
永淵修 (2013) Time of Oman 'Mount Fuji toxicity: Japan blames China', 2013 年 10 月 5 日
永淵修 (2013) The freeman, 'Japan study: China is 'polluting' Mt.Fuji', 2013 年 10 月 8 日
永淵修 (2013) The China post 'China is 'polluting Mt.Fuji: Japan study', 2013 年 10 月 5 日
永淵修 (2013) The Hindu Business line, China is 'polluting Mt.Fuji' 2013 年 10 月 5 日
永淵修 (2013) The Borneo post, 'China is 'polluting Mt.Fuji: Japan study', 2013 年 10 月 5 日
永淵修 (2013) Gulf news, 'China is 'polluting Mt.Fuji: Japan study', 2013 年 10 月 5 日
永淵修 (2013) The Borneo post, 'Study: China is 'polluting' mount.Fuji', 2013 年 10 月 5 日
永淵修 (2013) Hindustan Times, 'China is 'polluting Mt.Fuji says Japan study', 2013 年 10 月 5 日
永淵修 (2013) Hindustan Times, 'China is 'polluting Mt.Fuji says Japan study', 2013 年 10 月 5 日
永淵修 (2013) South China Morning post, 'Study points to China pollution over Fuji', 2013 年 10 月 5 日
永淵修 (2013) The straits times, 'Mt Fuji pollution 'from China', 2013 年 10 月 5 日.
永淵修 (2013) 読売新聞「富士山頂平均超す水銀」, 2013 年 10 月 3 日
永淵修 (2013) 朝日新聞「富士山頂の大気 高濃度水銀検出」, 2013 年 4 月 16 日
永淵修 (2013) 朝日新聞 記者有論「水俣条約 石炭火力発電の対策も必要」, 2013 年 10 月 29 日
永淵修 (2013) 朝日新聞, 「水銀, 食物連鎖で濃縮」, 2013 年 11 月 20 日,
永淵修 (2013) 週刊朝日, 水銀, ヒソまで飛んでくる! 中国飛来汚染物質大調査, 2013 年 5 月 20 日
田辺祥子(2013)新規海藻分解システムによる有用物質エクトインの合成, 日本経済産業新聞, 2013.7.14.
田辺祥子(2014)うみのこの体験からの琵琶湖における有毒・有害プランクトン研究, 朝日新聞, 2014.1.1
- 2) TV,ラジオ番組への出演等
- 永淵修 (2013) NHK, クローズアップ現代, 「動きだした水銀規制～水俣の教訓をどう生かす～: 世界に広がる 水銀汚染」, 平成 25 年 11 月 7 日,
永淵修 (2013) 毎日放送, 報道特集, 「ニュース: 水俣条約で問われるもの」, 平成 25 年 10 月 5 日
永淵修 (2013) よみうりテレビ, ズームイン!! サタデー, 平成 25 年 10 月 5 日
永淵修 (2013) よみうりテレビ, news every, 平成 25 年 10 月 5 日
永淵修 (2013) 毎日放送, JNN ニュースバード, 平成 25 年 2 月 28 日
永淵修 (2013) 毎日放送, VOICE, 「ニュース: 専門家の永淵修教授は, 屋久島での調査により日本での大気汚染物質は中国由来のものと判明したと話した。」平成 25 年 2 月 27 日
永淵修 (2013) ニュースウォッチナイン, 美しい雲仙の樹氷に異変が, 2014 年 1 月 23 日
永淵修 (2013) NHK 大津, おうみ 610, 琵琶湖で高濃度マンガン計測, 2014 年 3 月 13 日